

## 予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算      支出科目 款：農林水産業 項：農業費 目：農業振興費

<b>事業名</b> <b>新</b> 農畜水産業のDX加速化プロジェクト事業費
--

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農政課 農業研究推進係 電話番号：058-272-1111 (内 2804)

E-mail：c11411@pref.gifu.lg.jp

### 1 事業費 7,671千円 (前年度予算額：-千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	7,671	0	0	0	0	0	0	0	7,671
決定額	7,671	2,716	0	0	0	0	0	0	4,955

### 2 要求内容

#### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

人口減少・高齢化の進行により、農業の担い手不足、高齢化が課題となっている。農畜水産業においても、デジタル化は、作業の省力化、高品質化や販売戦略の策定による収益性向上などに有効である。国が策定した「みどりの食料システム戦略」では、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現することとしており、期待される取組にスマート技術を位置付けている。

栽培・飼養管理や品質管理にDXを導入することで、新たな農業経営基盤となり得る技術を開発し、本県の農畜水産業の振興に資する。

#### (2) 事業内容

本県の特徴ある品目のうち早急に課題解決が必要な品目(米、果樹、飛騨牛)について、ICTやAI技術を活用し、民間企業や大学、農業者と連携して革新的な技術開発を行う。

### 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	661	調査研究に関わる現地調査、研究会等への移動経費、費用弁償
需用費	3,789	調査研究のための消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕費
役務費	147	通信運搬費等
委託料	3,074	共同研究機関に研究を委託する費用
合計	7,671	

#### 決定額の考え方

財源については、地方創生推進交付金を充当します。

### 4 参考事項

#### (1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」(R3～R7)では4つの柱「ぎふ農業・農村を支える人材育成」、「安心して身近な『ぎふの食』づくり」、「ぎふ農畜水産物のブランド展開」、「地域資源を活かした農村づくり」を定めている。これに基づく重点施策に「ブランド展開を支える新品目の創出と生産流通技術の開発」が位置付けられている。

#### (2) 国・他県の状況

農業分野では、食料・農業・農村基本計画(令和2年3月31日閣議決定)において食料、農業及び農村に関する施策の基本的な方針にスマート農業の加速と農業のデジタルトランスフォーメーションの推進が位置付けられ、デジタル技術を活用した様々なプロジェクトを「農業DX構想」として取りまとめられた。

また、みどりの食料システム戦略(令和3年5月 農林水産省策定)には、その具体的な取組に「高い生産性と両立する持続的生産体系への転換」が位置付けられた。

#### (3) 後年度の財政負担

早急な現地実装を目標とし、本事業は令和6年度まで実施する。

#### (4) 事業主体及びその妥当性

本県に特化した品目や技術については、本県で研究開発する必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/>	新規要求事業
<input type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 県研究機関が持つシーズと研究資源の総力を結集し、民間企業や生産者、大学等と連携し、令和6年度までに開発技術の実用化・普及定着を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R3)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
	技術移転の推進	-			0件	

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価)	
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	

### (今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 担い手不足や高齢化は農業が直面する喫緊の課題であり、数年以内の現地実装を見据えた短期間での技術開発が必要である。</p>
--

### (次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ICT技術の活用により、出荷予測や画像診断、省力管理に向けたデバイスの開発及び現地実証を開始し、事業期間内での現地実装を目指す。</p>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	【〇〇課】